

外観上、特に変わったところはないが、実はボンディング加工の生地を使っていた、というような製品があります。ボンディング加工の製品であることが分ければ、クリーニングによる様々な変化の可能性を利用者に事前に説明できますが、それが分からないためにトラブルが発生することもあります。今回は、ボンディング加工の事故事例を紹介します。

監修／クリーニング総合研究所

素材
特性
に注意

衣類の状態

婦人用のハーフコートの右前身頃以外の生地が濃色になっている。濃色部分は湿ったようになっており、べとつき感がある。

リーニング処理を行ったことで樹脂がしみ出したもの。

濃色化していない部分は、特に変わったところがない普通の織物にしか見えないため、一見ただけではボンディング加工の生地を使用していることは判別しにくい。

部位によって生地の状態が異なるのは、生地ロットやボンディング加工の状態の違いによるものと推定される。

原因

ボンディング加工に使った接着樹脂が、着用による汗や空気中の水分などによる作用を受けて経時劣化したところに、ク



ボンディング加工の生地を使用したハーフコート。濃色部分は湿ったようになっており、べとつき感がある

ボンディング加工

布と布を貼り合わせる加工法。表側と裏側の生地に異なった生地を貼り合わせることで、表と裏を異なる色や生地構造にすることもできる。

ボンディング加工が開発された初期の接着剤には、酢酸ビニル、エチレン酢酸ビニル共重合体、アクリル系などの樹脂が使用されていたが、現在はポリウレタンが主体となっている。

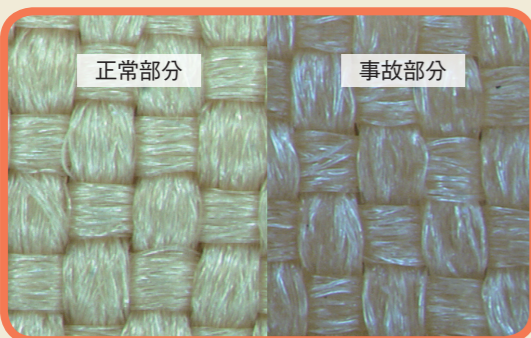
ボンディング生地を使用した製品には、組成表示が「表地…表／ポリエステル100%、裏／ポリエステル100%」のようになっていたり、裏側の生地と表側の生地が異なる色・織編構造などを行っているものがあり、こうした場合には、ボンディング加工の生地であることが推測できる。

事故の防止対策

ボンディング加工に使用される接着材の経時劣化は避けることができず、クリーニング処理での抜本的な防止対策はない。

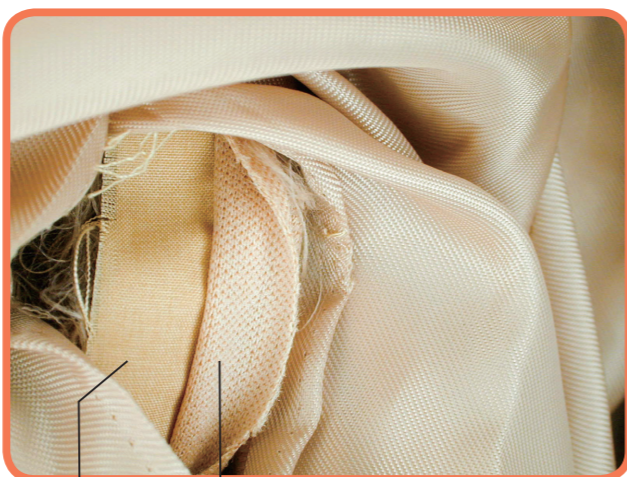
ボンディング加工の生地を使用していると推測できる場合は、表示を参照してクリーニング処理を行っても、剥離や樹脂のしみ出しが発生する可能性があることなどを利用者に事前に説明し、了承を得ることが望ましい。預かる際には購入時期なども確認するとよい。

返却時に異常がなかった場合でも、通常の保管状態で劣化が生じる可能性があることを利用者者に伝え、ボンディング加工の特性を理解してもらうことも有効な対策になる。



顕微鏡写真

濃色部分（事故部分）は、生地表面が樹脂で固められたようになっている



表側

裏側

濃色部分の縫い代は、接着が剥がれた状態になっている

■品名… ハーフコート

■素材… ポリエステル90%、
ポリウレタン10%

■取扱い表示…

■処理方法… ランドリー、パフ仕上げ